令和８年度

一般社団法人 水素･燃料電池開発情報センター

総会資料

令和８年９月 15 日（火）

タワーホール船堀

一般社団法人 水素・燃料電池開発情報センター

東京都千代田区神田淡路町一丁目１９番地（お茶の水ビジネスビル １階）

電話　03－6206－0231

令和８年度（一社）水素・燃料電池開発情報センター

定時総会議案　目次

第１号議案　令和７年度事業報告の件

第２号議案　令和８年度事業計画の件

第３号議案　役員選任の件

第１号議案

令和７年度事業報告

自 令和　７年 ７月　１日
至 令和　８年 ６月３０日

燃料電池開発情報センターは、1986年にNEDO、電力会社、電機メーカーなどの協力の下に発足し、当初会員数78機関で、暫定的に旧工業技術院内に事務所を設けスタートした。令和7年度（2026年度）は丁度設立40周年にあたり、令和8年１月29日には、設立40周年事業を開催した。従来から、FCDICの活動は燃料電池分野にとどまらず、会員ニーズに基づいて、水電解による水素製造、水素キャリア、水素インフラ、国際動向など、水素エネルギー全般に関する情報発信へと拡大している。また、水素エネルギー社会の実現に向け、水素と燃料電池を一体として捉える必要性が国内外で高まっている。そこで、FCDIC設立40周年の節目を機に、当センターの活動領域と社会的役割をより的確に表現するため、令和8年2月25日に臨時総会を開催させていただき、（一社）水素・燃料電池開発情報センターへの名称変更を承認いただいた。英語表記は、Hydrogen & Fuel Cell Development Information Centerに変更したが、英語略称は、既にFCDICの略称が定着し認知頂いていることから、FCDICのまま変更しないこととした。

さて、ロシアによるウクライナ侵攻は、欧州が長年依存してきたロシア産天然ガスの供給を大きく揺るがし、エネルギー供給を特定の国や地域に過度に依存することの危険性を世界に改めて認識させた。さらに、ホルムズ海峡を巡る緊張の高まりは、中東地域に依存する原油・LNG輸送が地政学的リスクに極めて脆弱であることを浮き彫りにし、エネルギー安全保障の重要性を一層高める結果となっている。

このような国際情勢を受け、欧州では、ロシア産化石燃料からの脱却を目指して再生可能エネルギーや水素エネルギーへの投資を加速するとともに、欧州内でのエネルギー自立の強化やエネルギー供給源の多様化を国家戦略として推進している。また、中国においても、特に原油に関わるエネルギー輸入への依存度の高さやホルムズ海峡を経由する輸送リスクを踏まえ、再生可能エネルギー、水素、蓄電池など次世代エネルギー技術への巨額投資を進めることで、国内でのエネルギー供給の自立化と産業競争力の強化を同時に実現しようとしている。

エネルギー安全保障は、もはや単なる資源確保の問題ではなく、経済安全保障、産業競争力、さらには国家安全保障そのものを左右する重要な戦略課題となった。こうした認識の下、欧州・中国をはじめ世界各国では、地球温暖化対策を口実にして、本当の目的はエネルギー安全保障のため、水素を中心とするクリーンエネルギーへの転換を国家戦略として位置付け、技術開発、インフラ整備、サプライチェーン構築への取り組みをこれまでにない速度で進めている。

このような国際環境の中、FCDIC では、6 月のシンポジウムにおいて、ヨーロッパ・アメリカ・中国・インドの水素および燃料電池に関わる最新動向を NEDO の海外事務所様から特別講演頂き、さらには元 IEA 事務局長の田中様からは日本のエネルギー戦略がどうあるべきかの特別講演を頂いた。世界ではエネルギー自立戦略に向けた大きな動きがあることが報じられ、強い関心が寄せられた。日本においても、エネルギー自立が可能となれば、毎年 20 兆円以上の国富の海外流出を抑制できる可能性がある。

今後、FCDICにおいてもエネルギー安全保障を優先する世界的な潮流を受けて、会員ニーズに基づいた水素エネルギー技術の情報収集や発信を積極的に行い、水素・水電解・燃料電池の更なる普及拡大を目指した研究会など、新たな取り組みを実施していきたい。

以下、1 年間の活動報告を記す。

会員数は､正会員､学術会員で入退会による増減があり､減少は8機関(名)であったが、学術会員で3機関（名）の増加があり、トータルでは1機関の増加であった。

総会、理事会、幹事会、並びに研究会、見学会、講習会、シンポジウム、各種広報出版などの定常的な事業活動は､ほぼ予定通り実施出来たが、新型コロナウイルス感染拡大以降、見学会と交流会を伴う研究会（講演会）を除く活動のほとんどは、対面とリモートとの併催で対応してきた。FCDIC最大の行事であるシンポジウムについても、口頭発表については、対面とリモートの併催で実施した。

令和７年度決算については、収入総額は、セミナー等講習会参加費の減収と、雑収入の減収により、1,530,376 円の予算に対する減収であった。一方、支出面は概ね予算通りの支出であり、結果的に本年度収支は、予算を 1,699,093 円上回る赤字であり、計 4,924,093 の赤字決算であった。これに伴い、翌年度繰越収支差額は 58,664,437 円となった。

第１号議案

以下に令和7年度の各活動の概要を報告する。

Ⅰ 会員数

	令和6年度末 （令和7年6月30日現在）				令和7年度末 （令和8年6月30日現在）
		入会	退会	増減差	
正会員	90	3	6	-3	87
公共会員	1	0	0	0	1
学術会員	77	4	1	3	80
海外会員	3	1	1	0	3
特別会員	8	1	0	1	9
合計	179	9	8	1	180

注１）海外会員の会員期間は毎年1月～12月。

Ⅱ 活動状況

1　開催行事

1.1 研究会の開催

下記2回の講演会､2回の見学会を実施した。

①　第177回研究会（講演会）：令和7年9月10日（水）、総会・理事会・交流会と併催

・場所：連合会館203・204会議室

・参加者：研究会56名、交流会50名

・講師：「三菱商事における水素領域でのインキュベーション活動」　三菱商事　賀来 競 様

「GI基金の水素関連事業の状況」：　NEDO　釘宮 貴徳 様

②　第178回研究会（見学会）：令和7年10月8日（水）

・見学場所候補：東レリサーチセンター（滋賀県）

・参加者：16名（定員30名）

③　第179回研究会（FCDIC設立40周年記念事業として講演会・賀詞交換会と併催）：令和8年1月29日（木）

・場所：上野精養軒

・参加者：特別講演会：75名、賀詞交歓会：79名

・記念事業の一環として、新入会員を増やすためFCDIC紹介パンフレットを制作

・前代表の太田先生を、40周年の特別功績賞として表彰。

・「これまでの10年、これからの10年」をコンセプトに特別講演会を実施。30周年から40周年の間、水素・燃料電池に関する課題・反省と次の10年の展望を特別講演頂いた。

講師：「燃料電池普及への挑戦：これまで、これから」　山梨大学　渡辺 政廣 先生

「Panasonicの燃料電池の取り組み」　パナソニック　エレクトリックワークス社　加藤 正雄 様

「FC-Cubicのこれまでの取組と今後の展望」　FC-Cubic　守谷 隆史 様

・賀詞交歓会：特別講演の講師の皆様より来賓ご挨拶、元 METI 課長　安藤様のビデオメーッセージ、特別功績賞の表彰式を実施。

④　第180回研究会（見学会）：令和8年3月4日（水）

・見学場所：デノラ・ペルメレック 藤沢事業所（主に水電解・食塩電解用電極製造工場の見学）

・参加者：30名（定員30名）

1.2 セミナー･講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

①　第41回セミナー：令和7年11月5日（水）10:00～19:15

・場所：タワーホール船堀　5F小ホールでの対面とリモートとのハイブリッド開催

・参加者数：100名（会場参加者52名）、交流会参加者数：30名

・講師：「水素社会のための水素メジャーの必要性とAEM水電解の最先端」　東京科学大学　山口 猛央 先生

第１号議案

「ホワイト水素(天然の水素資源)とその現状」　名古屋大学　吉田 利彦 先生

「水電解技術開発ロードマップと世界のグリーン水素の動向」

みずほリサーチ&テクノロジーズ　米田 雅一 様

「中国の水素・燃料電池産業の最新動向～水素版シェール革命を狙う中国」

インテグラル　中西 豪 様

「The Netherlands' Hydrogen Policy and Evaluation of Hydrogen Carriers」

オランダ政府　Han Feenstra 様、David Bolsman 様

「水分解光触媒によるグリーン水素製造」　信州大学　堂免 一成 先生

② 第40回寺子屋式講習会：令和7年12月3日（水）

・場所：連合会館401会議室（組立なしのためハイブリッド開催）

・参加者数：19名（会場：9名、Zoom：10名）

・講師：「PEFCの基礎」横国大　石原先生、「SOFCの基礎」産総研　石山様、
「水素・燃料電池等のエネルギー機器に関する特許の重要性」特許庁　太田様、
「環境エネルギーと水素・燃料電池の概況」FCDIC羽藤

③ 第41回寺子屋式講習会：令和8年5月20日（水）

・場所：連合会館402会議室（組立実習あり）

・参加者数：28名

・講師：「PEFCの基礎」横国大　石原先生、「SOFCとSOECの基礎」産総研　石山様、
「環境エネルギーと水素・燃料電池の概況」FCDIC羽藤

1.3 水素・燃料電池シンポジウムの開催

第33回水素・燃料電池シンポジウムは6月4（木）～5日（金）の日程で、タワーホール船堀において開催した。口頭発表については、会場とオンラインのハイブリッドで開催し、ポスター発表については1階展示会場のみで開催した。

① 参加者：約415名
交流会参加者：約160名

② 口頭発表

・特別講演 5件：NEDO海外事務所からインド・中国・米国・欧州の最新動向と、元IEA事務局長 田中様から日本のエネルギー戦略がどうあるべきかの特別講演を頂いた。

・受賞講演2件：学術賞1件、奨励賞1件

・HESS連携セッション4件：水電解・水素関連

・依頼講演13件：PEFC要素技術3件、水素充填要素技術1件、SOFC要素技術2件、移動体3件、定置用2件、水素サプライチェーン1件、：水素バルブ1件

・応募講演22件（若手招待講演5件および、ゴールドスポンサーによる企業プレゼン1件含む）

1.4 交流会、賀詞交換会の開催

令和7年9月10日の総会時に交流会、令和8年1月29日に賀詞交歓会（設立40周年記念事業と併催）を開催し、会員相互の懇親、情報交換を図った。

2 広報･出版

2.1 機関誌「水素・燃料電池」の発行

機関紙「水素・燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々の水素・燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

・「燃料電池」夏号Vol.25 No.1、特集「燃料電池及び水電解に関する解析・評価Ⅱ」85頁

・「燃料電池」秋号Vol.25 No.2、特集「大阪・関西万博における水素・燃料電池関係の展示及び実証」」66頁

・「燃料電池」冬号Vol.25 No.3、特集「海外における水素エネルギーの動向と戦略」95頁

・「水素・燃料電池」春号Vol.25 No.4、特集「SOFCセルスタックの高度評価・解析技術の研究開発」102頁

第１号議案

2.2「FCDIC Report」の発行

海外会員向けには「FCDIC Report」を隔月にメール配信し、FCDICホームページにも掲載した。

2.3 年報の発行

2025 年度版年報「日本における燃料電池の開発」（159 頁）を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は、日本の燃料電池開発状況概観、燃料電池における国家プロジェクトの現状、各業界・特別会員・公共会員の活動状況、各機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC の主な活動・組織、FCDIC 会員名簿、および国際標準化、燃料電池用語集からなる資料編で構成した。発行は WEB サイトから PDF をダウンロードする形式であり、外販も行っている。

2.4 FCDIC ウェブサイト

令和5年2月からFCDICのホームページをより多くの方々に閲覧頂けることを目指して、より分かりやすくかつシンプルにリニューアルした。水素・燃料電池に関連するシンポジウム、セミナー、機関誌、FCDIC Report、研究会などを適宜項目毎に分割して情報を発信している。また、水素・燃料電池に関わる「よろず相談窓口」を開設した。

2.5 展示会出展

H2&FC EXPO 2025秋と2026春において、ブースにて展示を行い､FCDIC の活動を広く一般に広報した｡また、春のEXPOでは、6月のFCDICシンポジウムの広報のため、プログラムの配布等を実施した。

3　共催･協賛･後援

以下に承認した共催･協賛･後援行事を列挙する。

令和7年7月1日～令和8年6月30日にご依頼をいただいたイベント等を掲載している。開催日は令和7年度とは限らない。

＜共催＞

「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】」

「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】」

主催：RX Japan 合同会社

開催日：2026 年 9 月 9 日（水）～9 月 11 日（金）「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】」

2027 年 3 月 24 日（水）～3 月 26 日（金）「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】」

場所：幕張メッセ（H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】）

東京ビッグサイト（H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】）

第 17 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー

主催：一般社団法人触媒学会 電極触媒研究会

開催日：2026 年 11 月 6 日(金) ～ 11 月 7 日(土)

場所：東レ総合研修センター

＜協賛＞

第 38 回秋季シンポジウム

特定セッション「エネルギー変換・貯蔵・輸送セラミックス材料の基礎と応用」

主催：公益社団法人日本セラミックス協会

開催日：2025 年 9 月 17 日（水）～9 月 19 日（金）

場所：群馬大学　荒牧キャンパス

第 45 回水素エネルギー協会（HESS）大会

主催：一般社団法人水素エネルギー協会

開催日：2025 年 12 月 10 日（水）～12 月 11 日（木）

第１号議案

場所：ハイブリッド（対面会場：東京大学　浅野キャンパス武田ホール）

第34回SOFC研究発表会
主催：SOFC研究会
開催日：2025年12月18日（木）～12月19日（金）
場所：ビジョンセンター東京　京橋

エネルギー技術対策委員会　主催講演会
「2050年カーボンニュートラルへの道筋 ― 世界の潮流と再生可能エネルギーの展開 ―」
主催：一般財団法人大阪科学技術センター エネルギー技術対策委員会
開催日：2025年12月25日（木）
場所：大阪科学技術センター4階401号室（会場、WEB配信（zoom）のハイブリッド形式）

第20回再生可能エネルギー世界展示会＆フォーラム（略称 RE2026）
主催：特定非営利活動法人再生可能エネルギー協議会
開催日：【展示会】2026年1月28日（水）～1月30日（金）
【フォーラム】2026年1月28日（水）～1月30日（金）
場所：【展示会】東京ビッグサイト　南ホール
【フォーラム】東京ビッグサイト　国際会議棟会議室

水素・燃料電池部会　2025年度公開シンポジウム
主催：一般財団法人大阪科学技術センター　水素・燃料電池部会
開催日：2026年2月10日（火）
場所：大阪科学技術センター　4F　401会議室およびオンライン（Zoom）

第63回日本伝熱シンポジウム
主催：公益社団法人日本伝熱学会
開催日：2026年5年26日(火)～5月28日（木）
場所：札幌コンベンションセンター

2026年関東支部セミナー　1から学ぶ電気化学のいろは（原理からアプリケーションまで）
主催：公益社団法人電気化学会関東支部
開催日：2026年5年28日(木)
場所：東京農工大学 小金井キャンパス 11号館L1111教室およびオンライン

11th International Congress on Ceramics（ICC’11)特定セッション
「S1-2 Carbon-Neutral Technologies: Batteries, Fuel Cells, Electrolyzers, and Related Devices」
主催：公益社団法人日本セラミックス協会
開催日：2026年9月6日（日）～9月11日（金）
場所：札幌コンベンションセンター

第67回電池討論会
主催：公益社団法人電気化学会　電池技術委員会
開催日：2026年11月24日（火）～11月26日（木）
場所：パシフィコ横浜ノース

第46回水素エネルギー協会（HESS）大会・2026HESS特別講演会
主催：一般社団法人水素エネルギー協会
開催日：第46回水素エネルギー協会（HESS大会）　2026年12月7日（月）～12月8日（火）

第１号議案

2026HESS 特別講演会　2026 年 12 月 9 日（水）
場所：ハイブリッド
（対面会場：タワーホール船堀　小ホール（HESS 大会）、タワーホール船堀　研修室（特別講演会））

第 21 回再生可能エネルギー世界展示会及び RE2026 国際会議
主催：特定非営利活動法人再生可能エネルギー協議会
開催日：2026 年 12 月 16 日（水）～12 月 18 日（金）
場所：【展示会】東京ビッグサイト　展示会場
【国際会議】東京ビッグサイト　会議室（口頭発表）及び展示会場（ポスター発表）

＜後援＞
第 10 回国際燃料電池ワークショップ 2025（IFCW2025）
主催：国立大学法人山梨大学
開催日：2025 年 12 月 4 日（木）～12 月 5 日（金）
場所：山梨県立図書館

水素先端世界フォーラム & HYDROGENIUS シンポジウム 2025
主催：九州大学水素材料先端科学研究センター
開催日：2025 年 12 月 17 日（水）～12 月 18 日（木）
場所：九州大学　伊都キャンパス　椎木講堂

日独水素専門家ワークショップ　「水素：リサーチからマーケットへ-日本とドイツの水素連携強化にむけて」
主催：日独エネルギーパートナーシップ・チーム
開催日：2026 年 3 月 16 日（月）
場所：新虎安田ビル NIKAI

課題解決 EXPO2026　エコテクノ 2026　～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～（第 31 回）
主催：福岡県、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会
開催日：2026 年 7 月 8 日（水）～7 月 10 日（金）
場所：北九州メッセ

＜協力＞
NAGOYA H2 Biz「水素技術講座」
主催：名古屋市
開催日：第 1 回 2025 年 8 月 25 日（月）、第 2 回 2025 年 9 月 29 日（月）、
第 3 回 2025 年 10 月 27 日（月）、第 4 回 2025 年 11 月 25 日（火）
場所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）1004 会議室またはオンライン

（一財）エネルギー総合工学研究所　第 452 回月例研究会
主催：一般財団法人エネルギー総合工学研究所
開催日：2025 年 9 月 19 日（金）
場所：Cisco Webex Webinars によるオンライン開催

任期付職員（特許審査官（審査官経験無し））の採用について
募集元：特許庁
応募締切日：2025 年 11 月 4 日（火）17：00 受信有効

Blueprint for a Methanol Society - Toward Carbon-Neutrality
発行元：Springer Singapore
著者：中村　潤児、石田　政義

第１号議案

発行日：2025年11月10日（月）

H2 POWER WORLD OSAKA【関西】水素エネルギーワールド
主催：RX Japan株式会社
開催日：2005年11月19日（水）～11月21日（金）
場所：インテックス大阪

第38回　エネルギー総合工学シンポジウム
主催：一般財団法人エネルギー総合工学研究所
開催日：2025年12月9日（火）
場所：日比谷国際ビルコンファレンススクエア及びWebex Webinarによるオンライン配信

水素若手人材育成シンポジウム
主催：東京大学先端科学技術研究センター
開催日：2026年3月17日（火）
場所：東京大学 先端科学技術研究センター 3号館南棟　ENEOSホール

公益信託ENEOS水素基金2026年度
募集元：三井住友信託銀行株式会社
申請受付期間：2026年4月1日（水）～5月8日（金）必着

エネルギートランジションと地政学 研究成果報告シンポジウム
主催：東京大学　先端科学技術研究センター
開催日：2026年7月9日(木)
場所：東京大学 本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール

EVS40 & EVTeC2027
主催：一般財団法人日本自動車研究所、一般社団法人自動車技術会
開催日：2027年6月13日（土）～6月16日（火）
場所：パシフィコ横浜

4　顕彰制度

産業貢献賞、学術賞および奨励賞について、令和7年7月～8月に募集を行った。選考委員会での審議結果に基づき、幹事会および理事会で了承が得られ、受賞者は以下の通りとなった。第33回水素・燃料電池シンポジウムにおいて、表彰式および受賞記念講演を実施した。

1.学術賞
・業績題目：「固体高分子形燃料電池に関する要素研究とその応用」
受賞者　：長岡技術科学大学　梅田　実　先生（学術会員）

1. 奨励賞
・業績題目：「再生型・直接燃料電池の反応・物質輸送の促進に対する貢献」
受賞者　：明治大学　石飛　宏和　先生（学術会員）

Ⅲ 決算の概要

令和７年度予算について、収入総額は、予算額37,022,000円であったが、セミナー等講習会参加費の減収と、雑収入の減収により、収入額実績は 35,491,624 円となり、1,530,376 円の予算に対する減収であった。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することとして、前年度の予算をベース に検討を行い、支出総額の予

第１号議案

算は 40,247,000 円とし、3,225,000 円の赤字予算とした。支出は概ね予算通りであり、結果的に本年度収支は、予算を 1,699,093 円上回る赤字となり、計 4,924,093 の赤字決算であった。これに伴い、翌年度繰越財産額は 58,664,437 円となった。

以下、実績について説明する。

まず収入については、会費収入はほぼ予算通りであった。イベント等の参加費収入については、シンポジウムの参加人数が昨年より増加し、予算額に対して約56万円の増収であった。しかしながら、セミナー・寺子屋式講習会等の講習会収入が予算に対して約52万円の減収であったこと、雑収入が減収した結果、令和7年度の収入予算額37,022,000円に対し、収入の決算額が35,491,624円となり、収入については令和7年度予算額に対し、1,530,376円の減収となった。

一方､支出については、引き続き活発な活動を維持することとし、概ね予算通りの支出となり、予算に対して 168,717 円の支出増となり、令和 7 年度の支出予算額 40,247,000 円に対し、決算支出合計は 40,415,717 円となった。

結果的に本年度収支は 4,924,093 円の赤字決算であった。これに伴い、翌年度繰越収支差額は 58,664,437 円となった。

令和７年度決算案を別紙に示す。

令和7年度決算報告書

自　令和7年7月 1日
至　令和8年6月30日

正味財産増減計算書

（単位：円）

項　　目	予算額	決算額	備　　考
収益			
1．会費	21,732,000	21,292,000	
（1）正会員会費	20,800,000	20,300,000	会員数87
（2）公共会員会費	120,000	120,000	会員数1
（3）海外会員会費	180,000	240,000	会員数4
（4）学術会員会費	632,000	632,000	会員数79
2．シンポジウム費	6,500,000	7,064,100	参加費、交流会費、展示会費等
3．講習会参加費	2,400,000	1,877,100	セミナー、寺子屋参加費
4．資料領布	50,000	0	講習会テキスト、年報等
5．機関誌頒布	800,000	698,860	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6．雑収入	5,540,000	4,559,564	預金利子、共催協力金
本年度収益計(A)	37,022,000	35,491,624	

（単位：円）

項　　目	予算額	決算額	備　　考
費用			
1. 会議・会場費	3,000,000	3,089,676	ｾﾐﾅｰ・講習会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	1,460,000	1,587,170	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,750,000	2,462,826	賀詞交歓会費、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ交流会費
4. 旅費交通費	760,000	1,163,619	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会･研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,700,000	1,829,200	年報翻訳、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑWEB申込ｻｲﾄ構築、 HPﾘﾆｭｰｱﾙ
6. 諸謝金	1,500,000	1,598,520	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	300,000	271,626	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	10,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	140,000	175,387	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	58,698	消耗品
11. 通信運搬費	400,000	408,302	郵送代、電話料、Web管理費、 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ使用料他
12. 支払手数料	680,000	738,372	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当	17,800,000	17,824,936	職員給与
14. 臨時賃金	220,000	198,381	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ｱﾙﾊﾞｲﾄ雇用代
15. 法定福利費	2,300,000	2,005,201	社会保険料
16. 公租公課	700,000	632,000	法人税、消費税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	43,782	健康診断補助他
18. 借室費	3,950,000	3,945,096	家賃
19. 光熱費	280,000	309,026	水道光熱費
20. リース費	882,000	911,328	複合機、ｾｷｭﾘﾃｨｰｻｰﾊﾞｰ他
21. 賃借料	200,000	162,200	ﾊﾞｽﾁｬｰﾀｰ代
22. 事務所整備費	500,000	430,323	Zoom導入費用、PC購入、什器備品他
23.退職金	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	570,048	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他、 寺子屋組立ｷｯﾄ購入他
25. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(B)	40,247,000	40,415,717	
本年度収支差額(A)−(B)	−3,225,000	−4,924,093	
前年度正味財産額(C)	63,588,530	63,588,530	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)−(B)+(C)	60,363,530	58,664,437	

貸借対照表

令和8年6月30日現在

（単位：円）

資産の部		負債および正味財産の部	
項　目	金　額	項　目	金　額
【流動資産】	**58,309,054**	**【流動負債】**	**1,860,617**
現金	144,636	前受金	744,000
普通預金	45,267,390	源泉税預り金	409,863
定期預金	12,000,000	住民税預り金	39,300
未収入金	345,400	未払消費税	551,500
前払費用	551,628	未払費用	115,954
【固定資産】	**2,216,000**	**【正味財産】**	**58,664,437**
敷金	2,000,000		
電話加入権	216,000	（内当期正味財産増加額）	58,664,437
合　計	**60,525,054**	**合　計**	**60,525,054**

財産目録

令和8年6月30日現在

（単位：円）

項　　目	金　　額	備　　考
資産の部		
【流動資産】		
現　金	144,636	手元現金
預　金	57,267,390	
（内　訳）		
みずほ銀行　神田支店	1,950,590	普通　主預金通帳
同　　上	24,927,826	普通　水素・燃料電池シンポジウム用通帳
同　　上	17,942,399	普通　水素・燃料電池講習会用通帳
同　　上	2,000,000	定期　預金
三井住友銀行　神田支店	442,171	普通　会費振込用通帳
同　　上	10,000,000	定期　預金
PayPal	4,404	決済サービス　海外取引用
未収入金	345,400	シンポジウム参加費
前払費用	551,628	会場費、家賃他
【固定資産】		
敷　金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話　03-6206-0231 ファクシミリ　03-6206-0232
合　　計	60,525,054	
負債の部		
前受金	744,000	令和8年度会費前受金
源泉税預り金	409,863	
住民税預り金	39,300	
未払消費税	551,500	消費税
未払費用	115,954	会場費、消耗品購入費等
合　　計	1,860,617	
差引正味財産	58,664,437	

令和７年度事業報告・決算報告に関する監事の意見

令和７年度事業報告・決算報告について監査した結果、

適法かつ妥当であることを認めます。

令和８年８月６日

監事　横川　晴美

第２号議案

令和８年度事業計画の件

自 令和８年 7 月 1 日
至 令和９年 6 月30 日

近年のエネルギー供給に関わる国際情勢を受け、特に欧州や中国では、域内でのエネルギー自立やエネルギー供給源の多様化の強化を国家戦略として推進している。エネルギー安全保障は、もはや単なる資源確保の問題ではなく、経済安全保障、産業競争力、さらには国家安全保障そのものを左右する戦略課題となってきており、こうした認識の下、欧州・中国をはじめ世界各国では、地球温暖化対策を口実にして、エネルギー自立を目指して水素を中心とするクリーンエネルギーへの転換を国家戦略として位置付け、技術開発、インフラ整備、サプライチェーン構築への取り組みをこれまでにない速度で進めている。クリーンエネルギーの中でも太陽光や風力のような自然任せの再生可能エネルギーを大量導入するため、電力を平準化する手段の一つとしても水素エネルギーに期待が寄せられていると思われる。

一方で、このような情勢の下、経済産業省ではDRready勉強会を開催している。その中のDR対応機器の一つとして、エネファームの有効性が再認識されつつある。従来のエネファームは熱主電従の運転制御を行い、貯湯槽が満タンになると運転を停止するよう制御している。しかしながら、DRモードの運転制御をすることで、上げDRと下げDRの両方の実施が可能とされており、発電容量は大きくないがDR対応を進めていくべきであると認識されている。水素供給インフラが整備されるまでの過渡期の施策としてエネファアームをDR対応機器として扱うことは、電力を平準化する手段の一つの対応策として考えられる。

日本の水電解を含む水素産業や燃料電池産業が、今後も継続的に成長できるよう、FCDICにおいては世界の最先端の燃料電池・水素分野の動向をタイムリーに発信して行けるよう、引き続き取り組みを実施していきたい。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

Ⅰ 活動計画

1 開催行事

1.1 総会･交流会､賀詞交歓会

令和8年度総会を令和8年9月15日（火）に開催し、研究会（講演会）と交流会を併催する。また、令和9年2月2日（火）には、研究会と賀詞交換会を開催し、会員相互の親睦を図る場とする。

1.2 第34回水素・燃料電池シンポジウム

令和9年5月20日（木）、21日（金）にタワーホール船堀において開催の予定である。

1.3 研究会

講演会を年2回､見学会を年2回程度予定している｡講演テーマ､見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ､企画委員会にて検討していく。

1.4 セミナー･講習会

水電解の最新状況に関するセミナーを本年11月11日（水）に開催する。初心者向け講習会(寺子屋式講習会)については､年2回を予定している。

2 広報･出版

2.1 機関誌｢水素・燃料電池｣の発行

水素・燃料電池に特化した学術雑誌（年4回発行）として、内外の動向に応える内容でPDF版として発行を継続する。

第２号議案

2.2 2026年度版年報「日本における水素・燃料電池の開発」の発行

日本における水素・燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約してPDF版として発行する。

2.3「FCDIC Report」の発行 海外会員向けの情報として、「FCDIC Report」の発行を継続する。

2.4 ウェブサイトの充実

FCDICのホームページに会員専用サイトを設け、機関誌や年報や研究会テキストのPDF版をダウンロードしていただく。また、水素・燃料電池に関する「よろず相談窓口」も継続して開設中である。さらに、シンポジウムやセミナー等のタイムリーな情報発信の方法として今年度も適宜運用する。

3　海外調査

重要度の高い国際会議に出席を検討し、水素・燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

4　共催･協賛･後援

令和8年9月9日（水）～9月11日（金）、令和9年3月24日（水）～3月26日（金）と、千葉と東京で2回開催予定の国際水素・燃料電池展(H_2&FC EXPO)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいてFCDICの活動を展示し広報する。その他の共催･協賛･後援についても、幹事会の承認の下、積極的に引き受ける。

5　夢の燃料電池１０ WG活動

50年後の燃料電池を考えるWGから名称変更し、本格普及に向けて引き続き開発が進められている燃料電池の夢の姿を議論しまとめる作業部会の実施を検討する。夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開している。このリストを多くの研究者に参考いただき、今後の研究開発の参考としていただくこととする。

6　グリーン水素研究会

（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）が主催する水素サプライチェーン整備委員会に事務局が参画し、その動向を踏まえた上で、FCDIC独自のグリーン水素研究会の方向性を検討する。

7　顕彰制度

産業貢献賞、学術賞ならびに奨励賞の募集を7月～8月に行う。表彰式は第34回水素・燃料電池シンポジウムでの挙行を予定している。

Ⅱ 予算の概要

本年度は昨年度より10社少ない77社の正会員数でスタートする。今年度は、例年より正会員数が減少したため、昨年よりやや少ない会費収入と、シンポジウム・セミナー等への参加者増を期待して収入予算を積み上げ、35,467,000円の収入予算を組んだ。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することと、会員サービスの充実を目指して、今後も対面とリモートの併用での情報発信を進めるための外注費と、交流会などに関わる渉外費・会議費、更に事務所整備費を計上し、前年度の予算をベースに検討を行い、総額 41,347,000円とし、5,880,000円の赤字予算とした。

令和8年度予算を別紙に示す。

令和8年度予算

自　令和8年7月 1日
至　令和9年6月30日

収支予算書

（単位：円）

項　　目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	令和7年度決算額	備　　考
収入				
1. 会費	19,852,000	21,732,000	21,292,000	
(1)正会員会費	18,860,000	20,800,000	20,300,000	会員数78+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	240,000	180,000	240,000	会員数4
(4)学術会員会費	632,000	632,000	632,000	会員数75＋途中入会
2. シンポジウム費	7,200,000	6,500,000	7,064,100	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,000,000	2,400,000	1,877,100	セミナー、寺子屋参加費等
4. 資料領布	50,000	50,000	0	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	800,000	698,860	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	5,565,000	5,540,000	4,559,564	預金利子、共催協力金等
本年度収入合計(A)	35,467,000	37,022,000	35,491,624	

令和8年度予算

（単位：円）

項　　目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	令和7年度決算額	備　　考
支出				
1. 会議・会場費	3,000,000	3,000,000	3,089,676	ｾﾐﾅｰ・講習会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	820,000	1,460,000	1,587,170	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,500,000	2,750,000	2,462,826	総会交流会、賀詞交歓会費、 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ交流会費
4. 旅費交通費	1,050,000	760,000	1,163,619	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会･研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,700,000	1,700,000	1,829,200	翻訳、ｳｪﾌﾞｻｲﾄ構築他
6. 諸謝金	1,600,000	1,500,000	1,598,520	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	280,000	300,000	271,626	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	10,000	10,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	180,000	140,000	175,387	複写代、事務用品
10. 消耗品費	60,000	100,000	58,698	消耗品
11. 通信運搬費	400,000	400,000	408,302	郵送代、電話料、Web管理費、 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ使用料他
12. 支払手数料	740,000	680,000	738,372	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当	18,200,000	17,800,000	17,824,936	職員給与
14. 臨時賃金	220,000	220,000	198,381	ｱﾙﾊﾞｲﾄ雇用代
15. 法定福利費	2,600,000	2,300,000	2,005,201	社会保険料
16. 公租公課	650,000	700,000	632,000	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	60,000	75,000	43,782	健康診断補助他
18. 借室費	4,827,000	3,950,000	3,945,096	家賃、更新料
19. 光熱費	300,000	280,000	309,026	水道光熱費
20. リース費	950,000	882,000	911,328	複合機、ｾｷｭﾘﾃｨｰｻｰﾊﾞｰ他
21. 賃借料	200,000	200,000	162,200	ﾊﾞｽﾁｬｰﾀｰ代他
22. 事務所整備費	450,000	500,000	430,323	Zoom導入費用、PC購入他
23.退職金	0	0	0	退職慰労金
24. 雑費	550,000	440,000	570,048	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険 寺子屋組立ｷｯﾄ購入他
25. 予備費	0	100,000	0	
本年度支出合計(B)	41,347,000	40,247,000	40,415,717	
本年度収支差額(A)−(B)	−5,880,000	−3,225,000	−4,924,093	
前年度繰越収支額(C)	58,664,437	63,588,530	63,588,530	
翌年度繰越収支額 (A)−(B)+(C)	52,784,437	60,363,530	58,664,437	

第３号議案

令和８年度　役員選任の件

Ⅰ 役員

	理事	岡崎　健	東京科学大学　名誉教授	（代表理事候補）
	理事	佐薙 徳寿	（株）東芝	（副代表理事候補）
	理事	井上 雅之	（一社）日本ガス協会	（副代表理事候補）
	理事	羽藤 一仁	（一社）水素・燃料電池開発情報センター	（常任理事候補）
	理事	佐藤 康司	ENEOS（株）	
新	理事	村瀬 裕一	大阪ガスマーケティング（株）	
	理事	安田 和明	（国研）産業技術総合研究所	
	理事	麦倉 良啓	（一財）電力中央研究所	
新	理事	高橋　徹	東京ガス（株）	
新	理事	橋本 道雄	東京大学	
	理事	雨宮 一樹	トヨタ自動車（株）	
	理事	梅田　実	長岡技術科学大学	
	理事	黒羽 智宏	パナソニック エレクトリックワークス（株）	
	理事	小山 茂樹	（株）本田技術研究所	
	監事	小関 和雄	元FCDIC 常任理事・前顧問	
	監事	横川 晴美	元（国研）産業技術総合研究所	
新	監事	石田 政義	筑波大学	

Ⅱ 顧問　※顧問は役員ではございませんがご報告いたします。

太田 健一郎　横浜国立大学　名誉教授

Ⅲ 役員（理事、監事）の新任、重任、退任、辞任、次回選任予定

＜新任＞
高橋徹【理事】、橋本道雄【理事】、村瀬裕一【理事】、石田政義【監事】

＜重任＞
岡崎健【代表理事】、佐薙徳寿【副代表理事】、井上雅之【副代表理事】、羽藤一仁【常任理事】、佐藤康司【理事】、麦倉良啓【理事】、雨宮一樹【理事】、梅田実【理事】、黒羽智宏【理事】、小山茂樹【理事】、横川晴美【監事】

＜退任（任期満了）＞
石田政義【理事】、北川雄一郎【理事】、小林徹【理事】、神谷信行【監事】

＜辞任＞
原達範【理事】

＜次回選任予定（令和９年度定時社員総会終結をもって任期満了）＞
村瀬裕一【理事】、安田和明【理事】、小関和雄【監事】

以上